

わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

49期(1995/平成7年)

25周年に思う



会員 石田 恵美 (49期)

平成6年11月 司法試験合格発表
合格者740名(うち女性157名)
平成7年1月17日 阪神淡路大震災
同年3月20日 地下鉄サリン事件
同年4月 第49期司法修習生、和光に集まる
平成9年3月 司法研修所卒業、それぞれの道へ

・・・私たち49期は今年度で25年目となる。昨夏には、名古屋での25周年記念大会が予定されていたが、残念ながらコロナ禍のため中止となってしまった。

当時は12クラスで、私は5組。60名中12名が女性だった。先日、クラス最年長だったIさん(岐阜県弁護士会)から電話があった。「やっぱり歳取ったわあ。仕事減らそうと思って、私に頼んだら報酬は高いよ、他の先生に頼みやって言うんやけど、どうしてもって言う人がいるからねえ。断れんのよ」という。電話口の声は相変わらず大きくハリがあるが、もうすぐ70歳だという。娘さんを育て上げ、今やおばあちゃんでもある。

ふと、研修所のアルバムを開いてみた。「和光第二期」と書いてある。そうだった。ピカピカの教室、真新しい匂いの寮。寮生がランバブ(ランドリーバブ。寮の洗濯場前での呑み会の略称。当時、役人接待で問題となったランジェリーバブではない)で熱く語っていたパワーを思い出す。ソフトボール大会やいずみ祭(寮祭)もあった。いずみ祭で森高千里の「私がオバさんになっても」を歌っていたら、教官からマジでやめなさいと言われたのは、当時私が妊婦だったから。隣席のYさん(奈良弁護士会)もほぼ同時期に妊娠し、「つわりが

酷くなったら後ろで寝ちゃおうね」とか妊婦トークに花が咲いていた。前席には子育て中のSさん(第一東京弁護士会)もいて、保育園とかお弁当作りとか、生き生きと話してくれた。当時はまだワープロ全盛期だ。モバイルパソコンもなければ、子育て支援なんてものもなかった。それでも、周りにIさんやSさんがいたので、なんとかなるような気がしていた。今で言うロールモデルかもしれない。出会いに感謝しかない。

実務修習に入り、私の弁護修習担当は淵上玲子会員だった。指導協力は加藤俊子会員、佐々木一郎会員、谷真人会員、司法修習委員は太田治夫会員だった。私自身が妊婦であることを忘れ、充実した修習だった記憶しかないのは、ひとえに先生方が気遣ってくださったからに違いない。出産は刑裁修習のときだった。廊下で産むなよーと冗談を言われるくらい直前まで登庁させてもらい、出産後に模擬裁判を機に戻ってからも、事務官の休憩室で冷凍庫をお借りしたり(何故必要かは経験者のみぞ知る)、温かく見守っていただいた。その後の民裁修習は、部長・副部長ともに女性でお子さんがいらっしやったが、I部長は厳しいことで有名な方だった。しかし、あるとき「子どもが熱を出すと休まなくちゃいけないでしょ。でも、一緒に空をぼーっとみながら、雲がきれいだねーっていう時間もいいものよ」とニコッと行ってくださった。きっと私が煮詰まっていたのだろう。焦ることはない。全部が大切な役割であり、大変なことも幸せなことなのだ。

今、長女は25歳で彼女の道を行く。修習時代は母親兼業弁護士の私の原点である。